

| 令和7年度学校評価 評価結果   |          |   |   |  |          |
|--|----------|---|---|--|----------|
| 本年度の重点目標   |          |   |   |  |          |
| <p>1. 探究する力を向上させるために<br/>           ①主体的に学ぶ態度を確立し、様々な知識を活かしながら、物事の真理を探究する姿勢を養う。<br/>           ②ICTを積極的・合理的に活用し、様々な観点に立って、物事の真理を探究する姿勢を養う。</p> <p>2. 共感する力を向上させるために<br/>           ①共に学び、ともに考えることにより、互いの考えを認め合い発展させる。豊かな人間性を養う。<br/>           ②ともに活動し、ともに体験することにより、互いのおおろを思いやり共感する。豊かな人間性を養う。</p> <p>3. 自立する力を向上させるために<br/>           ①生徒会活動や部活動などを通して、自らの役割を理解し責任をもって行動する態度を養う。<br/>           ②学校行事や部活動などを通して、自らの意志で積極的に周囲に貢献しようとする態度を養う。</p> <p>4. 突破する力を向上させるために<br/>           ①自らの目標達成のため突破すべき課題を設定し、解決に向けて粘り強く努力する姿勢を養う。<br/>           ②SDG'sなどの取り組みで追究すべき課題を発見し、解決に向けて主体的に学ぶ姿勢を養う。<br/>           ③業務の見直しや効率化を進めるなどの業務改善に取り組み、教職員の健康維持に配慮して在籍時間の適正化を図り、多忙化の解消に努める。</p> |          |   |   |  |          |
| 分掌による取り組み  |          |   |   |  |          |
| 項目   | 分野       | 取り組み内容  | 具体的方策   | 評価結果と課題  | 担当       |
| 1  | 探究する力の向上 | 生徒の主体的に学ぶ態度や物事の真理を探究する姿勢を養うための授業の研究                           | ①授業公開週間を通して教員の授業改善に対する意識の持続を図る。<br>②授業の相互見学によって学校全体の授業スキルの向上を目指す。<br>③授業におけるICTの操作方法等、新たな知識を得る機会とする。  | 今年から再開した2週間の授業公開週間は、教師の授業実践の場として、また「生徒が主語となる授業」を意識して実施した。今年の反省を生かし、マイナーチェンジした形で、来年度も継続して実施していきたい。  | 教務部      |
| 2  | 共感する力の向上 | 「効果的な読書」のあり方  | 生徒の主体的な読書活動に繋がるような読書LTのあり方について検討する。   | 読書LT「ビブリオバトル」を終えて、読書の楽しさを感じてもらい、友達を紹介する自分の知らないジャンルの本への興味関心を高めてもらうことができた。今後、生徒自らが本を手取り読書をする活動につなげてもらえるよう、イベントや展示などをおとし、図書館や本を身近に感じてもらえるよう活動を積極的に展開していきたい。   | 情報図書部    |
| 4  | 突破する力の向上 | 模試(模試ナビ)を活用した学習活動の向上  | ① 目標設定・目標校を明確にするために、模試ナビを利用して学習意欲を向上させる。<br>② 模試後、模試ナビで自己採点・振り返りを行わせ、次回受験に生かさせる。  | 3年生は半数以上が模試ナビを活用することができた。1、2年生は模試DXの導入に伴い、ほぼ全員が目標設定に取り組み環境を整えることができた。模試後の復習への活用が課題となるであろう。   | 進路指導部    |
| 4  | 突破する力の向上 | 主体的に考動し、自分を超越して突破する生徒を育成する                                    | ①文化祭のクラス発表の立案・運営に際して、各自に役割・責任を持たせ、潜在的な力を引き出す。<br>②体育祭で、生徒が主体的に取り組む、前例にとらわれない内容も前向きに考えるようにさせる。<br>③そのほかの行事においても、生徒が自分から動ける仕組みを構築する。<br>④生徒会活動や行事を通して、広く学校外への関心を持たせる。   | 各行事において、上級生から下級生への引き継ぎを定着させ、より主体的に活動できるようにさせた。また今後の社会の変化に柔軟に対応できる力をさらに育てたい。  | 特別活動部    |
| 1  | 探究する力    | 防災意識の向上を図る  | ①防災訓練について、バリエーションを増やす。<br>②避難訓練と防災講話を連携させることで、具体的な危険について喚起する。<br>③(震災だより)を年2回発行し、防災員に防災タイプ診断(事前・事後)を実施する。   | 有志の防災係を中心に、文化祭へのブースの出店や、防災計画の見直しなど様々な活動を行うことができた。しかし、生徒全体へ周知し、防災意識を向上するところまでは至っておらず、来年度以降も継続的に活動と周知を行ってきたい。  | 保健部      |
| 3  | 自立する力の向上 | 生徒が主体的に学ぶための学校説明会の実施  | ①総務部を中心とした本校生徒が、中学生に本校の魅力伝える場を提供する。<br>②必要であれば、有志の生徒に学校紹介ビデオのリニューアルをさせる。<br>③学校説明会当日のプレゼンテーションにおいて、本校の魅力の伝え方を生徒に考えさせ、工夫させる。   | 準備から実施まで、滞りなく行うことができた。プレゼンを担当した生徒は、教員が作成したスライドのレイアウトを変更したり、独自の内容を加えてオリジナルのスライドを作成し、自分の言葉で学校の紹介をしていた。中学生のアンケート結果では、教員よりも生徒から話を聞いたことで、生徒目線の学校の様子を知ることができてよかったという好意の反応が多数を占めた。反響としては、本校まで来る途中に暑さで体調を崩す中學生が多かった。参加する中學生に熱中対策を呼びかけたい。また、当日充電が切れてしまうスピーカーが多数あったため、スピーカーの準備と管理を徹底したい。さらに、学校紹介動画の内容が一部古くなっているため、来年度に向けて新たに作成していきたい。    | 総務部      |
| 3  | 自立する力の向上 | 交通安全・防犯意識の向上と違反の減少  | ①全職員に共通理解を得るとともに、警察などとの連携を図る。<br>②生活交通委員会の交通安全啓発活動と、防犯活動を促進する。<br>③職員会や集会などを通じて交通安全・防犯に関する情報提供を行う。  | 交通指導員、中学校PTAの交通係と定期的に通学路における危険箇所を情報交換を行ったことにより、本校の生徒の通学事情を詳しく知ることができたことで、交通安全指導が充実できた。しかしながら、本校生徒の交通マナーには問題が多く、登下校時における自転車事故も減少はしたものの他校に比べて多い。また、今後は、更なる交通安全に対する意識向上のための取組が必要である。4月より道路交通法が改正され、自転車運転の違反に対して青切符、罰金も、罰則が厳格化された。生徒の生命を守るために、自転車乗車時のヘルメット着用を呼びかけるとともに、生徒自身が考え、行動し、安全な通学路を選択ができる交通安全教育を行い、自己指導能力のある生徒の育成を目指していきたい。 | 生徒指導部    |
| 3  | 自立する力の向上 | 支援が必要な生徒の早期発見・早期対応、問題の本然防止に努めるとともに、改善・回復を促すことも意識したチーム支援を構築する。 | ①生徒のニーズに速やかに対応できるように、相談室に担当教員を配置する。<br>②相談室だより)の定期的発行や掲示物等を通して、生徒の心の成長の底上げを図る。<br>③不適応状態になった生徒やその保護者に援助を行い、SCやSSW・専門機関などとも連携を図る。  | 日ごろから生徒についての情報共有を行い、関係職員と連携することで、支援を必要としている生徒の早期発見、迅速な対応につながった。SC(スクールカウンセラー)やSSW(スクールソーシャルワーカー)による専門的な助言により、生徒の状況が好転した。日常の生徒対応に生かされることができた。来年度も同様に支援を行いながら、生徒が自立する力をつけるように努めたい。   | 生徒相談部    |
| 2  | 共感する力の向上 | いじめの早期発見と、適切な事案対処 互いの思いを思いやり、考えを認め合う、「共感する力」の啓発               | ①「いじめ防止基本方針」を教職員間で共有しHPに掲載するとともに、いじめのサイン見しシートを保護者に配付し、啓発を図る。<br>②「いじめ防止基本方針」に基づき、早期発見・対処のマニュアルを教職員間で確認するとともに、「いじめの認知について」を配付し、教職員間の共通理解を深める。<br>③生徒に対して、定期的に「こころのアンケート」を実施することによって、「いじめの早期発見と適切な対処に繋げる。また掲示物等を通して、「共感する力」の啓発に努める。 | 「いじめのサイン見しシート」を配付し、いじめ防止の啓発や「こころのアンケート」を定期的に実施することによって、悩みを持つ生徒の早期発見・情報共有・早期対応に繋げることができた。来年度以降もアンケートを活用した情報共有を継続するとともに、いじめの防止や早期発見、「共感する力」の向上」に資する啓発活動にさらに取り組んでいきたい。  | いじめ対策委員会 |
| 5  | 安全衛生     | 職員の健康障害防止と労働環境の適正化  | ① 年次休暇を年5日以上取得するように促す。<br>② 在籍時間等調査において勤務時間外従事時間が月80時間を超える職員には面接を促す。<br>③ 年間12回(月1回程度)の定時退校日を適正に実施する。   | おおかたの職員の心身の不調の要因となる長時間労働は防ぐことができたが、特定の職員に大きな負担と長時間労働が見受けられるので改善していきたい。月45時間以上の時間外勤務者をなくすために部活動の適正な活動時間の徹底と業務の分担を図ってきたい。また、職員室の施設時間については、夏時間は19時30分～時間19時00分を目指していきたい。  | 安全衛生委員会  |
| 学年による評価  |          |   |   |  |          |
| 第1学年   | 自立する力の向上 | 学習習慣・基本的生活習慣の確立、進路目標の設定                                       | ①学年通信やLT等を通じて自身の授業への姿勢を省みる機会を持ち、毎日の授業を大切にすることを意識を養う。<br>②定期考査を軸に学習計画を立てる機会を設け、トライアル&エラーの中でその質を高める。<br>③挨拶、整理整頓を推進し、自身の周りの物事にアンテナを向けられる生徒育成に努める。   | 多くの生徒が、基本的な学習・生活習慣を確立することができた。来年度もその習慣を継続し、有意義な高校生活を送ることができるようサポートしたい。また、進路目標の設定を通して、より主体的・計画的に学習に取り組めるよう働きかけていきたい。  |          |
| 第2学年   | 探究する力の向上 | 学力の伸長、進路目標の具体化  | ①進路目標の実現のため、望ましい学習習慣の確立へと導く。<br>②進路意識を高めるために、多様な進路情報を適切な時期に提供する。<br>③定期的な個人面談を通して生徒個々の現状や課題を把握し、進路目標の設定の手助けを行う。   | 総合的な探究の時間を中心に、自らの興味・関心について考えを深めることができた。また、年間を通じて担任との面談を定期的に行い、生徒個々の実施把握と適切な助言を与えることができた。今後は受験を意識した学習と高校での深い学びをリンクさせ、自ら主体的に学んでいく生徒を育成していきたい。  |          |
| 第3学年   | 突破する力の向上 | 進路目標の実現   | ①進路に関する最新の情報を学年団で共有し、生徒と保護者に適切に提供する。<br>②学習講座、校外模試、スタディサプリなどの学習ツールや、自習室の積極的な活用を促し、見直しを持った学習へと導く。<br>③定期的な個人面談を通して生徒個々の現状や課題を把握し、進路目標の実現に向けて的確な進路指導を行う。  | 進路に関する最新の情報を細やかに提供することを心がけた。学習講座、校外模試、スタディサプリ等を個々のニーズに合わせて活用して学習の効果を高めた。自習室を開放し、生徒同士互いに切磋琢磨しながら年間を通して勉強に向かう姿が多く見られた。入試の形態が多様化しており、今後は一層生徒一人ひとりに適した進路指導を心がけていく必要がある。  |          |
| 総合評価   |          |   |   |  |          |
| 各分掌・学年が重点目標の達成に向けて意欲的に取り組んだ結果、保護者へのアンケート結果では一定の評価を得ることができた。来年度以降も新たな課題を見つ、さらに活力と魅力のある学校づくりに取り組んでいきたい。  |          |   |   |  |          |